



# 東九州支部報

第98号

公益社団法人日本山岳会東九州支部  
2022年7月25日(月)発行



令和4年度定期総会 大分市コンパルホール視聴覚室 2022年4月23日

## も く じ

1. 支部活動		私の無名山ガイドブック (No.85)	11
令和4年度定期総会(支部長挨拶)	2	中国地方の山々(恐羅漢山ほか)	12
令和4年度定期総会(議事)	2	日向岳ロープワーク研修(こぎこぎ倶楽部)	14
令和4年度定期総会記念講演	3	岐阜県の山々(鷲ヶ岳ほか)	15
7月月例山行 佩楯山	3	鷹鳥屋山ほか(こぎこぎ倶楽部)	17
役員研修山行①(一般登山セルフレスキューABC)	3	針目山ほか(こぎこぎ倶楽部)	18
役員研修山行②(リーダーシップ、メンバーシップ)	4	大船山～黒岳中腹ルート探索(こぎこぎ倶楽部)	19
役員研修山行③(リスク恒常性の法則)	5	続 黒岳の中腹ルート探索(こぎこぎ倶楽部)	20
中級者育成研修(北川水系黒内谷沢登り)	7	八ヶ岳 赤岳西壁主稜	20
第9回 登山教室(実践講座・鶴見岳)	8	谷川岳 東尾根	21
スズタケ枯死とシカの食害調査	8	天測探訪記(姫島)子午線標	22
2. 個人投稿	9	北アルプス紀行	24
ペンリレー 第45号	9	3. 支部からの報告	26
より安全な登山のために(No.45)	9	4. お知らせコーナー	26
登山会報リバイバル(第1回)	11	後記	28

## 令和4年度定期総会(支部長挨拶)

新型コロナに翻弄されて、3年目。次第にコロナウイルスも弱毒化しているように見えるが、生活はコロナ前に戻るようなことはないかもしれない。

多くの山小屋などは、感染防止のために、宿泊定員を減らす経営をしている、そのため、山小屋宿泊は、完全予約者のみの受け入れ態勢をとっている。北アルプスなどに行くには、早くから準備しないとイケないが、数か月先の天候は、予想できない。また、ロシアのウクライナ侵攻・円安の影響で、物の値段は上がり、山小屋の宿泊費用は、数年前より数千円は高くなっている。

我々の日本山岳会は、令和4年6月18日に、令和4年度通常総会を開催した。新型コロナウイルス感染状況から参集されることなく、議決権行使、委任状にて、すべての議事が承認された。総会は無事に終了したが、一番の課題は、会員の減少問題である。令和3年度の本会の正会員数は4377名、準会員数を含め4627名、一年前より、159名の減少である。日本山岳会の活動の資金は、会員による会費納入が基本となっていて、会員数の減少は、活動資金の減少と結びつき、大きな問題となっている。

ここ十数年、新入会者を増やす努力をしてきたが、退会者が入会者を上回っていることが続いている。また今後、会員の高齢化による大量退会者をむかえることも予想される。コロナの影響もあるが、本会を維持していくには会員数の維持が不可欠となっている中での総会だった。維持のため、寄付金募集も提案された。

総会に先立って、6月6日に開催された評議員会で、「あと10年でJACは財政的に破綻する」との報告もあった。会員数の減少は喫緊の課題で、各会員も自分の課題として考えておくことが必要と思う。

さて、当東九州支部は、去る4月23日に支部総会を開催した。いくつかの課題、問題点の議論があったが、すべての議事が承認された。当支部も、会員の高齢化の影響を受けて、いくつかの行事の継続が難しい面もある。当支部一番の課題は、健全な活動の継続だが、将来を見越して、行事の取捨選択により、効果のある行事の充実化を考えたい。また、支部の活動には、個々の支部会員のレベルアップが

必要で、会員の登山力を伸ばすことを考えたい。登山力とは、正しい技術をもった岳人、正しい判断のできる岳人、自立した登山が出来る力と考えたい。

支部役員をはじめ、実力をもった先輩会員、ほか若輩も含めて、支部の活性化・個々の登山力のレベルアップを本年もお願いします。

## 令和4年度定期総会(議事)

令和4年度東九州支部定期総会が、さる4月23日(土)大分市府内町の「コンパルホール・視聴覚室」で開催された。総会には会員61名(うち委任状出席34名)で4月23日現在の会員78名の過半数を超えていて(ほかに会友14名が出席)総会は成立。

最初に鹿島副支部長が開会の挨拶があり、議長に佐藤秀二会員(13141)を選出を予定していたがこの時間に間に合わず、急遽、矢上将大(役員)にピンチヒッターをお願いし議事を進行した。議事録署名委員に河野達也氏(16600)、佐藤彰氏

(16709)を指名。議事に入った早々に興田勝幸氏(8614)から、「議長は役員が務めてよいものか」と意見された。事情を説明したが納得せず、議事は冒頭から中断……。会員からこのまま中断しても議事は進まないの由来者の拍手(同意)をもって進めどうか、となり同意を経て始まった。

事務局から第1号議案令和3年度活動報告があり、報告の通り承認された。

また次の第2号議案令和3年度会計決算報告を会計平原(健)委員が、会計監査報告を浅野委員が行い、報告の通り承認となった。

続いて事務局から第3号議案令和4年度活動事業計画(案)の提案があり、昨年に続く古道調査、登山教室や青少年体験登山大会などの公益事業、月例山行や韓国山岳会との交流などの共益事業、会員そのもののスキルアップをもくろみ「役員研修」などをふくみ案件が提案された。会員のための研修目的なのに有料にするのはおかしいなどの意見が出されたものの、役員会で再検討することで承認された。

第4号議案令和4年度の会計予算案の提案があり、質疑を行った。一部記載事項に不備があり、今後検討するという事で承認された。

以上をもって議事を終了し議長降壇の後、出席者全員で総会の全日程を終えた。

**令和4年度定期総会記講演**  
**(文殊仙寺住職:秋吉文暢氏)**

定期総会恒例のアトラクションは、今年は昨年度から取り組んでいる本部創立120年記念行事の一環である「全国山岳古道調査」東九州支部では現在調査中の「国東六郷満山」について学ぼうと地元、文殊仙寺住職秋吉文暢氏にお願いした。

同氏は平成20年に文殊仙寺副住職として戻られるまでは東京で不動産会社の営業職を経験されるなどユニークな経歴の持ち主の方で、平成26年に「宇佐国東半島を巡る会」を立ち上げ事務局長としてやって来られました。これまで4度の峯入りを満行されています。令和2年3月、文殊仙寺第92世住職になられています。

4度の峯入りを踏まえて、天台宗の峯入り回峰行の行法や、エピソードなどを御話しいただいた。

**7月月例山行 佩楯山**  
**(報告:橋本真由美(会友256))**

会友となり月例山行2回目の参加です。今回は佩楯山、19名参加で車は11台、腰越峠より登山。帰りは山頂付近の駐車場より車で登山口まで帰る為、半分の車を先に駐車場へ移動しました。

9:40 腰越峠より登山開始。登山口が分かりづらいですが、フェンスの外側を沿って登って行くと登山道に出ます。20分ほど歩くと伐採ゾーンがあり、太陽を遮る木がないのは夏の登山ではきつい所です。伐採ゾーンを抜けて休憩に入るとスイカのおやつを頂きました。ただでさえリュックが重いのに、皆さんの分のスイカを入れて登山をしていたなんて凄いなと思いつつ、あまりの美味しさに感動しました。

10:45 藪をかき分けて、四等三角点669.0mを発見。藪が多く皆さんと行かないと絶対見つけられなような場所にあります。その後ハシゴが2ヶ所、ロープが1ヶ所あり、ちょっとおもしろいコースです。昼食後12:10に出発、12:30佩楯山、山頂一等三角点753.8mへ到着。

今回は、山頂より「役行者」の尊像がある修験場跡へ行きます。山頂より25分で到着。そこからさらに10分ほど急登を行くと、もう1ヶ所「役行者」

の尊像があります。修験場の尊像から次の尊像までの急登が一番きつかったです。なかなかハードでした。

佩楯山は、古代神聖な山でした。山岳宗教が盛んな時は修験者たちの重要な修行の場だったようです。

「役行者(えんのぎょうじゃ)」は修験道の開祖として1300年ほど前の人と伝えられています。

13:50 駐車場へ到着。そこから全員車で移動し、14:05 腰越峠登山口へ到着し解散となりました。約4時間30分ゆっくりした登山で熱中症にもならず良かったです。

自宅に帰り「役行者」について調べ、歴史に触れる事ができ、良い登山となりました。夏は暑いですが、木陰をゆっくり歩いて風を感じると、とても心地よいです。それからスイカがとても美味しいです。下山後にもスイカを配る方も居て、2回もスイカを食べました。感謝です。事前に藪を手入れして下さったリーダーありがとうございました。



役行者の像

<参加者>

リーダー:中野(稔)

飯田(勝)、下川、櫻井、丹生

久知良、平原(健)、山村、遠江

古谷(耕)、平原(瑞)、榎園、古谷(あ)

中野(梨)

**役員研修山行①**

「一般登山のセルフレスキューABC」

場所:七瀬川自然公園

(報告:下川智子(会員14505))

5月21日(土)第2回役員研修登山が行われた。参加者9名。8時七瀬公園集合。初めに講師の安東支部長より安全登山の話があり、「一般登山のセルフレスキュー ABC」と書かれた本の抜粋のコピーが配られた。その中に「山でのアクシデントに適切に対処するセルフレスキューはひとりひとりの登山者が習得しておくべき必須の技術。事故を未然に防ぐための技術であり、パーティのメンバー全員がそれを習得し、実践できるようになっている必要がある。」とあった。その通りでこれが今回の役員研修登山の目的だと思う。

まずは読図講習。地図にも表記されている七瀬公園内にある三角点を地図とコンパスを頼りに全員で探す。近くまでいければなかなか見つからない。ようやく道路より少し高い台地のような場所を見つける。そこで120cm以上のスリングを用いて簡易チェストハーネスをつくる方法を学ぶ。簡単そうにみえてなかなかうまくできない。周りの人に教えてもらい何とか完成させる。滑落したメンバーを引き上げるためのロープワークの練習もする。また2本のストックとタオル、テーピングを使った簡単な松葉杖の作り方も学ぶ。

次に場所を移動し、チェストハーネスに安全環付きカラビナをセットしひとりずつ順番に懸垂下降の訓練をする。昼食後、七瀬公園と平野の集落の間地点あたりの谷から山に入る。踏み跡のある小道を歩いていく。すぐに踏み跡はなくなり道なき道を歩くことになる。沢や道の分岐などでたびたび安東支部長より「現在地確認をするように」との指示がでる。一生懸命地図を見るもなかなか自分のいる場所が地図上でどこなのかわからない。「周囲の地形をよく見るように。沢や尾根、傾斜などヒントになるものはたくさんある」と言われる。そのうち傾斜が急になり藪漕ぎで木や根っこをつかんで登っていただくだけで精一杯になり、地図を見る余裕もなくなっていく。途中で古い石の馬頭観音があった。三面に顔があり頭の上に馬の彫り物がある。明治14年作とのこと。沢を右に左に何度も渡りながら急傾斜の山腹をよじ登っていく。通常の霊山登山とは全くの別物。力尽きそうになりながらついに登りきった場所は常日頃歩いている霊山山頂と第一展望台の間地点だった。

下山は通称仙人コースと呼ぶ尾根道を下り秋岡の集落におりつき17時に七瀬公園に戻った。今回の

研修登山では読図講習、ロープワークなどたくさんのお話を学んだ。

しかしどれも緒についたばかりでこれらのことを自分のものにするには継続して訓練していかなければだめだと痛切に感じた。これからも機会あるごとに積極的に参加して少しでも自分の登山技術を上げていきたいと思う。

<参加者>

講師：安東

聴講者：笠井、中野(稔)、中野(梨)、佐藤(裕)、櫻井、佐藤(彰)、上野、下川

## 役員研修山行一②

「リーダーシップ、メンバーシップ」

場所：高崎山

(報告：中野梨絵(会友239))

6月8日(水)

9時に田ノ浦ビーチ駐車場に集合して、安東リーダーより①リーダーシップ、メンバーシップについて、山ではリーダーの言う事を聞かないといけないこと②正しい登山技術、簡易ハーネスは簡易だからひもは熱をもち切れることがある。それを理解して使わないといけないこと③祈る登山者にならないで！山の危険に備えて準備して山にいきましょう④国土地理院1/25000の地図を見ながら山を見て、これからどのコースを行くか確認してから、いよいよ9時50分に田ノ浦ビーチを出発しました。住宅街を抜けると里山まで降りた猿を山へ追い返す方々に遭遇。喉が哽れるくらい大きな声や空砲を撃ち、猿を山へ山へと追い返していました。時折、猿の群れの中にかわいい子ザルが見えて、登る私たちのすぐ横を猿が通り、愛らしさに癒されながら、地図の破線部分の急登をアオキの樹海を漕ぎこぎ登ると、銭瓶峠(南登山口)からの登山道につきあたり、そのまま山頂を目指しました。山頂は涼しい風が吹き抜けて、青い空と青い別府湾がよく見えて、ベンチのところで昼食となりました。昼食後、安東リーダーより、のろし台の穴は一つしかないから、敵が来たことなど、いろいろな情報を赤い炎や青い炎で仲間知らせることは大変だったことや、難攻不落

の山城であったことを案内してもらいました。高崎山はお猿の山としか思っていないかもしれませんが、古い歴史ある素晴らしい山であることを学びました。また下山道の脇の穴は、猿がミネラル補給をしていると面白い話を聞きながら歩くと、脇にそそり立つ岩壁がみえて、いよいよここでクライミングの講習が始まりました。まずはカラビナとスリングを個々それぞれ準備して、皆を順番にロープにつなげてから、安東リーダーが先頭に岩壁を登り、つながれた順番に岩壁をよじ登ります。濡れていて、落ち葉もあり滑りやすい岩壁の小さな隙間に足を置き、手の位置を確認しながら慎重に登り、岩の上に着くと、クライミングになった先輩方が身軽にすいすい下降していきました。先輩にフォローされながら、登った岩壁を恐る恐る下降しました。登るのは上しか見ないけれども、下降は下を確認しながらなので、手に汗握るスリルのある体験でした。皆で無事に講習を終えてから、下山道の脇からアオキの樹海にはいり、昔、水を山頂まで運んだ「姥が隠れ水」と「姥が墓」が見つかり、皆で供養のお参りをしたあと田ノ浦ビーチに17時に到着しました。高崎山の違う一面に触れることができました。参加できてよかったです。ありがとうございました。



高崎山山頂

＜参加者＞

講師：安東  
 聴講者：笠井、 中野（稔）、 中野（梨）、  
 佐藤（裕）、 櫻井、 佐藤（彰）、  
 上野 下川

**役員研修山行一③**

**「リスク恒常性の法則」**

**場所：清川町(御嶽山)実践**

**(報告：佐藤裕之(会員16315))**



クライミング初体験の壁

6月19日(日) 天気 曇り  
 道の駅きよかわに集合。

まず、安東支部長から「リスク恒常性の法則」なるものの説明がある。すなわち、技術や装備の進歩や改善でリスクが減ったように見えても、山行形態が変化するため、結果として、リスクの総量は変わらないということだ。新しい技術を身に付けても、そのことが新たなリスクを生む要因となることを自覚して行動するということか？

次に、遭難の原因として、天候の悪化やルートの変化などが指摘されることがあるが、原因は天候が悪かったから、ではなく、それに対応した適切な行動を選択しなかったことにある、との説明があり、一同、納得した。

本日は、役員以外の参加もあり、総勢、14人と賑やかな山行になる。

清川町六種の左右知集落に移動して、9時30分出発。本日のテーマは「一般登山道で、不測の状況に遭遇した時、どう切り抜けるか？」また、地図で登れそうなルートを探索し、無事登りきるということにあるらしい。4班に分かれて地図を見ながら、各自の判断で御嶽山頂を目指すことになったが、のっけから、林道が、地図と実際の形状や延長が違うようで、首を捻りながら、歩いていくと御嶽山につながる尾根の末端に出くわす。ここからは、特徴のある地形が見え、現在位置を確定することができた。

当然、ルートはなく、急傾斜の泥道を登って行くが、意外と歩きやすい。11時ころ、岩場の下に出る。ここで、ロープで確保してもらい、1人ずつ登って行く。K氏の番の時、立木の上の方を掴んだようで、荷重がかかり、立木が抜け、数メートル滑落する、というアクシデントがあったが、怪我らしい怪我にも至らず、幸いであった。

この現場では、セルフピレイを確実にとることと、支点に荷重をかけないで登ることを学ぶ。ここを登りきると、気持ちの良い稜線に出て、後は岩がちなルートをずんずん登る。頂上付近の岩場は、フリーで問題なく登れ、風もとおって、実に爽快である。12時30分、山頂到着。以前、神社の駐車場から参道を登った時とは比較にならない充実感である。

山頂で休んだ後、御嶽神社に参拝し、滑りやすい参道を注意しながら、県道まで歩く。県道から250mほど下って、左手の林道に入った後、その末端まで歩き、そこから比較的緩やかで歩きやすい尾根道を延々と下山する(ところどころ、急傾斜や藪もあるにはある)。降り着いたところから、左に向かうと、朝通過した林道に出る。14時50分帰着。

道の駅清川に戻って、総括を行うが、「山行中、アクシデントに遭遇した時、持っている道具で対応するしかないが、いろんな山行を通じて学んでほしい」という話があった。また、「岩場の立木は根が浅く、力をかけてはならないことと、あくまで、足とバランスで登って、できるだけロープや立木には頼らないようにしよう」との話があった。

本日のコース、ルートがない割には歩きやすく、藪も少ない、変化にとんだ良いコースだが、同じ時期にまた行きたい人は少ないだろう。というのはやたらとヒルが多い。特に前述した尾根の末端はヒルの巣窟で、無数のヒルがこちらを狙っている。虫除け剤の成分を見ると「デート」が含まれているので、スボンや靴に吹きかけ、追い払ったと思ってい

たが、帰ってみると二か所やられていた。幸い血が凝固して出血も最小限だったが、数日間は、むずがゆかった。本日の克服すべきアクシデントは、むしろヒル対策であったように思えてならない。

ヒル対策を調べてみると色々あるようだが、それは割愛。嫌われ者のヒルだが、落ち葉の隙間から、ちょろちょろと首を出している様は可愛らしくもある?とは言え、決して連れて帰りたくはない。これからはヒルの出そうなところには、塩か忌避剤を持って行こう。

行動時間 5時間20分 5.3KM  
 累積標高差 登り 490m 下り 500m

<参加者>

講師：安東

聴講者：鹿島、下川、河野、平原(健)、笠井、生野、佐藤(裕)、清水(道)、清水(久) 平原(瑞)、上野、佐藤(美)

(会員外参加者 2人) 計14人



核心部で、確保しながら登る



御嶽山山頂で同行者を待つ

## 中級者育成研修

場所：宮崎県(北川水系黒内谷)沢登り

(報告:笠井美世(会員 16883))

7月9日(土)道の駅宇目に8時に集合した。前日の雷と大雨が嘘のような青空になった。講師は安東支部長。参加者は13名。東九州支部8名。支部外5名。そのうち5名は沢登り初体験となった。黒内谷は桑原山から派生する北川の支流。延岡市北川町黒内の集落を過ぎて入渓した(8:30。360m付近)。

講師が4人ずつ3班に分けた。私の班は上野さんと支部外の2人、私がリーダーになったが、つべこべ言っている暇はなく、女子沢登り隊の先頭を歩く。



核心部でリードする笠井

花崗岩がゴロゴロした沢を歩いていくと小滝が現れた。大雨の後で水量が多く白い水しぶきの中の足場を探し登っていく。次の黒内谷大滝を私たちは登れないと判断して高巻きをした。小滝や大きな岩が続く。登れない人があれば、お尻を押ししたり、膝を借りたり、上からスリングにカラビナを付け垂らしたりして助け合った。体が水圧で押し流されそうになる所はザックごと引き上げてもらった。そのうち、少し広い釜がある滝に出た。そこで私たち4人は40mのロープにつながった。またもや、つべこべ言っている暇はなく私がリード。壁沿いの残置ハーケンに細いスリングを通して支点を作り、流れを飛び越えて登った。大きな岩を支えている2つの岩に240cmのスリングを二重に巻いてセルフビレイを取ったが、この岩で良いのかと思っているうちに片方のスリングは外れるし、下の様子はわからないし、沢の音で声は届かなかった。下にいた上野さんが指示をしてくれたので、上で確保して無事に登った。地形図で現在地を確認しながら、橋の下をくぐり、桑原山への分岐を左股へ進み林道に出た。(13:30。650m付近)達成した喜びがあられ女子4人で握手をした。

支部外の参加者からは「いつもはガイド登山なのでチームで行動するのは初めてだった。」「沢登りをしてみたいと思ってきたが、どこに参加すればよいのかわからなかった。参加できてよかった。」など意見を聞くことができ、東九州支部への入会につながることを願った。

研修山行沢登りも5年目。安東支部長に基礎から教わってきた。地形図に谷筋を書いて準備をするが、実際の沢の景色は想像以上に美しい。いつもリードする勇気のない私が機会をいただいた。瞬時の判断とさらなるクライミングの練習の必要を感じた。



北川水系黒内谷沢登り練習

<参加者>

講師：安東支部長

リーダー田所、川村(美)、川村(寛)、甲斐

リーダー鹿島、佐藤(彰)、佐藤(裕)、佐藤(美)

リーダー笠井、上野、安藤、橋本

## 第9回 登山教室 (実践講座)

鶴見岳 (1,374.5 m)

(報告：佐藤裕之 (会員 16315))

5月29日(日) 天候 概ね晴れ

東九州支部の初心者向け登山教室の日である。岳連の登山教室と場所、時間帯が重なったので、受付時、やや混乱するが、にぎやかで良い。

ロープウェイ駐車場から、山頂経由して、南平台周回コースをとる。初心者には、ややハードではないか、と心配したが、無事下山した。頂上のミヤマキリシマは、ちょうど見ごろだ。1年のうちでも、最も良い季節である。受講生も楽しかったと思う。

この日、由布岳で死亡事故があったと、後で聞いたが、自分は気がつかなかった。

参加者 受講生 15人 支部 9人

時間 6時間56分 距離 7.5km

登り 980m



## スズタケ枯死とシカの食害調査

祖母・傾き山系 (本谷山) 稜線西側

(報告：阿南寿範 (会員 9169))

2022年6月4日(土)

参加者:14名

大分植物研究会9名

日本山岳会東九州支部5名

毎年6月と10月の第一土曜日に行っている恒例の「スズタケ枯死とシカの食害調査」は新型コロナウイルスの感染拡大状況の中で実施を見合わせていたが、一年半ぶりの実施となった。

6月4日(土)、午前7時に集合場所の豊後大野市緒方町の道の駅「原尻の滝駐車場」に集まった。当支部会員が5名、植物研究会が9名。ここから尾平越へ移動。トンネルの南側の広場に再集合した。全員が到着したことを確認し、取り合えず調査ポイントの稜線まで登った。ここで小休止した後、リーダーから本日の調査内容が知らされた。今回の調査は、稜線左右10m範囲内の幹の皮脂剥ぎ調査を例年通り行い、定点観測地点のコドラート調査(葉群高調査は成長完了とみなす)は行わず、その代わりにササの育成分布調査(コドラート)を行った。私は、育成分布調査(コドラート)班に加わった。この調査は昨年の10月調査(植物研究会メンバーのみで実施)で行った際稜線に15か所の観測地点を設けてその場所のササの生育状況を観測するものである。15か所のポイント位置はGPSデータ管理されており、それを使いながらまず場所探しから始まる。植物研究会の話



によると定点観測地点の調査が終わった後で、思いついた手法だったので、各ポイントには、ピンクテープを割りばしで地面にマークしてだけであるので、抜けて割りばしが無かったり、ピンクテープが外れたりしていたため、GPSデータの機械的なデータでは中々ポイントを見つけ出すのは大変だった。ポイント写真を撮影していたため最終判断は現地写真により判断。ナンバリングは、本谷山の定点観測地点を基準としているので、稜線の東方向から西方向へ打たれている。

各定点には、割りばしNo位置に、白い杭(測量用の杭)設けたので次回からは、場所の確認はスムーズになるだろう。定点では、スケール2本を使い2mの正方形を作りその中にササの分布度(%)を調べて記録する。ササはほとんどがミヤコザサで1、2箇所ミヤコザサとスズタケが混在するところが見られた。昨年10月調査の時と今回の場合とではほとんど分布状況は、変わっていない。観測地点はオープン箇所のため、シカの食害を大きく受ける場所もあった。昨年10月より始まったこの場所がどのように変化していくのか興味深く見守っていきたい。

〈当支部参加者〉

飯田(勝)、阿南、平原(健)、平原(瑞)、遠江



調査スタッフ集合写真

## 個人投稿

### ペンルー・第45号

「第45号は都合により次号に掲載」

次号をお楽しみに！

より安全な登山のために No. 45

「谷川岳登山指導センター」

安東桂三（会員 9193）



コドラート調査状況

クライミングを趣味とする友人（I氏）と、3年前より、谷川岳一ノ倉沢烏帽子岩南稜を登りたいと話しかけていたが、なかなか実現せずいた。でも、今年こそは、6月から7月にかけて、出かけようと計画していた。天候や、新型コロナや、仕事の関係で、結局、今シーズンの登攀はあきらめることとなった。

が、南稜はあきらめても、谷川岳のどこかに出かけようと、支部会友（U女子）と谷川岳東尾根の登攀に行ってきた。

まず、未知のエリアに出かけるときは、そのエリアの情報収集が必要で、一番はアプローチの問題。そのエリアに詳しい岳人と登るのであれば、それが

わかるが、知らないもの同士では、すべてがチンプンカンプン。雪渓の状況(アイゼン有無)。取り付きはどこか(暗いうちに取り付くので、該当ルートに取り付かず、間違っ隣りの難しいルートに取り付けば、行きづまってしまう)。登攀終了後の下山は、懸垂下降か、稜線まで登り上がるか。懸垂下降ならば、下降点はどこか、下降距離はどれほどか、それが判らないと持参するロープの選択も難しい。知らないところの懸垂下降は、登るより怖い。稜線まで登るなら、途中で宿泊しないといけないかもしれない。それなら、ツェルト、簡易シュラフ、食料が増える。その重量に耐え、登攀出来るか。そのような課題を考えるのは、楽しいし、時間がかかるし、それが充分に出来れば、安全な登攀が保障される。また、充分なトレーニングも安全な登攀を保障する。

でも、南稜はお預けになった。

東尾根は、私の残雪期の目標で、3月くらいで雪が安定した時期に登ろうと頭の中にしまっておいたルートで、夏に登るパーティは少ない。東尾根は、マチガ沢と一ノ倉沢を分ける尾根で、途中にシンセン岩峰があり、登攀は、第二岩峰、第一岩峰とあり、谷川岳オキノ耳が終了点。谷川岳の概念をつかむには、良いルート。

谷川岳には危険地区というエリアが設定されていて、3/1~11/30の間にそのエリアに立ち入るには、事前に2通の登山届を提出し、事前にチェックを受けることになる(群馬県谷川岳遭難防止条例という)。今回は、登攀予定前日に谷川岳登山指導センターを訪問し、指導員に提出し、情報収集した。雪渓の状況は、例年になく良いと情報を得た。東尾根へは、巖剛新道から、マチガ沢、シンセン沢、右俣を経てシンセンのコルに登り上がると伝えた。センターの隊員からは、気を付けて楽しんできてと言われた。

また、私には気になる事故があった。それは、直近の6/18、一ノ倉沢衝立岩でクライミング中に35歳の男性が、80m転落し死亡した事故だった。山岳会のパーティによる登攀だった。不可思議な事故だったので、尋ねた。なぜ80m落ちたのか、なぜ止まったのか、なぜもっと落ちなかったのか。パーティなので、他のメンバーはどうしたのか。

返答は、ピレイヤーに確保され40mほど登った。そこで、行き詰まり落ちてしまい、すべてのプロテ

クション(支点)が抜け、崩壊し、ピレイヤーを通り越して、40mほど下で止まった。

ピレイヤーはケガしなかったのか、ピレイ点は崩壊しなかったのかと問う。返答は、ピレイヤーはしっかりしたクライマーだった。支点は崩壊しなかったと答えられた。

センターを退出し、少しウォーミングアップがてらに、マチガ沢、一ノ倉沢出合い、一ノ倉沢雪渓と下見に行き、明日の登攀のために早くに就寝し一寝入りしたところで、携帯がなった。センターの隊員からで、シンセン沢右俣は滑るので注意との再アドバイスだった。翌日は3時半に起床し、4時過ぎには出発し、アドバイスの通り、シンセン沢右俣は滑って苦労した。山頂のオキノ耳には、苦労しながらも11時48分に登り上がった。

群馬県谷川岳遭難防止条例と同様に、他の県でも、条例のある県がある。劔岳も富山県登山届出条例があり、12/1~5/15に登る岳人は事前に登山届を提出し、それに違反すれば、罰則がある。また、夏山などの一般ルートに登る場合も、登山届の提出を義務としているところがあり、長野県では、長野県登山安全条例が、岐阜県には、岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例、新潟県では、新潟焼岳における火山災害による遭難防止に関する条例がある。ありがたい条例であり、条例があることにより、山岳遭難事故の防止となっている。



谷川岳登山指導センター、谷川岳警備隊

**登山会報 リバイバル (第1回)**  
**「深峠を探して～地図から消えた道」**  
**安部可人 (会友11)**

平成10年(1998)12月(創刊第2号)「雪深峠を探して 加藤英彦」 「今回40年ぶりにこの峠を訪ねる機会に恵まれた。我が家は飯田村硫黄山、(今は登山者で賑わう)長者原登山口近くに住んでいた。昭和28年の大洪水で13曲がりの道路が通れなくなった」(川西道路はあった。皆さんはどのルートで大分に帰りますか、地形図「大船山」「湯平」をご覧ください)「近道として千町無田経由で雪深峠を越え、湯平へと何度か越えた記憶がある」と加藤さん。この記事を追えば、1075周辺の峠が「雪深峠」(1034)でしょうか。安東支部長から借りた50年前の昭文社の地図【注】を読んだら、雪深峠は扇山と合鴨山との鞍部林道高度1090となっている。加藤の書いた位置よりも1km手前だ。「右手に見える1075のピークを確認しながら、カヤを踏み分け、かすかに残る踏みあとをたどりながら雪道を進む。やがて下りにかかる地点で、昔の峠らしき地点に立つ。小さな古ぼけた作業小屋があり、営林署の昔の立て札が立っている。ここだ。ここに間違いはない。気になっていた”雪深峠”である。やがて農免道路にでた」と加藤の報告である。現在は峠から南へ急坂4曲がりを下り、花合野川沿い湯平に通じる。50年前の地図には、その峠から北東へ扇山牧場の940、3三等三角点(穏やかな風景だ)を経て花合野の湯平温泉にでる4kmの下り道がある。これが消えた道でしょう。【注】1971年6月刊、昭文社の九重登山地図(4万分の一)の執筆者は折元秀穂とあり、かなりの肩書を持つ人物である。雪深峠が記名されていて、正解と信じる(詳細は後編)。加藤会員の父数功さんは硫黄精錬所の所長をしていて、九州山岳会の草分け的な存在である。著書もある。「大昔じゃなー」と安東支部長は参加したことも覚えていない。

(後記) 安東蔵書『九重高原開拓史』古賀勝を借りた。悲惨な千町無田湿原開拓史である。氾濫する筑後川(久留米)の農民たちが来た。「馬や牛でももう少しいまいものを食っている」。原始時代のごとき粗末な家で、極寒飢えた。当時は筑後弁だらけであった。開墾と日銭稼ぎの硫黄運搬の二足わらじだ。硫黄景気で生き残れた。鉱業所～吉部～無田中の中

継所～雪深峠(荷を降ろした)、馬の交替だろうか、その先不明。湯平温泉では馬糞に苦情があったから、そこまでは硫黄袋は馬の背で運搬されたようだ。湯平温泉祭りには雪深峠を越えて、若者たちは芝居見物した。加藤さんが歩いたのは10歳のころだ。(加藤さんから豆知識) 大友宗麟は硫黄を火薬の原料としてアジアに輸出した。日清戦争の特需景気で開拓者は生きながらえた。加藤所長のころは、宮崎の日本パルプの漂白剤に需要があった。

(このシリーズの趣旨) 古きものから、新しい事実を知りたい。登山技術にもふれたい。初回は雪深峠を中心として、千町無田開拓史、硫黄山、やまなみハイウェイ、川西道路の歴史にふれます。\*後編の紙面の都合で以下の説明をこの場でしておきたい。

(川西道路) 11号線の起点は長者原～水分峠(210線合流点)。トンネル東口～畑倉～(旧別府一の宮11号線)～終点桑屋・日野病院跡(川西地区)210線合流 \*やまなみハイウェイ以前はこの川西道路で熊本往来でした。日野病院跡付近が川西地区で硫黄景気で酒場・妓楼(遊郭)で賑わった。立派な病院は史跡となって、繁栄した夢の跡でしょう。南由布駅が近い。硫黄は貨車輸送されたと推測する(資料がない)。川西道路以前は長者原～千丁無田～湯平ルートで硫黄は牛・馬で運搬された。そこに雪深峠があるのです。湯平も賑わった(あんべよしと)。

**私の無名山ガイドブック (No. 85)**

**由原津留 (380.6m)・岩屋 (306.6m)**  
**・一反田 (303.5m)**

**飯田勝之 (会員 10912)**

前回に続いて、佩楯山から東に中ノ谷峠へと連なる稜線中ほどの楯ヶ城山から、北に派生する稜線からさらに野津川右岸側にせり出した支稜線末端部分の小ピークを三つ紹介しよう。

**由原津留 (ゆはらつる)**

楯ヶ城山から北に派生する支稜線が、恒河内川の支流の田代川によって二つに分かれる、その西側の支稜線の中の小さなコブである。

風連鍾乳洞のある野津町泊の対岸の田代の天神社前から谷沿いに入る林道を進めば約800mで三叉

路がある。ここより右の荒れた林道を登る。スギ、ヒノキの植林地の中を、曲がるくねりながら高度を上げていき、1時間も登れば次第に傾斜が緩くなり、10分余りで稜線に達する。その奥に荒れた作業道が続き、左手の照葉樹の林を回り込むように稜線を進んで、左に入れば作業道から1分で4等三角点があるところに着く。三角点の周りはスギの林の中にヤマザクラ、シイ、カエデ、アカマツなどが点在する。

参考タイム：林道三叉路→1時間10分→稜線→1分→三角点

### 岩屋 (いわや)

野津町岩屋の野津川とその支流の合流点にせり出した稜線上の最後の突起である。県道山部野津線の岩屋バス停から東に入り、橋を渡って数件の民家を過ぎて直ぐに南東に上る急な細い林道がある。入り口は舗装だが急斜面で荒れている。入り口から約30分(800m)で小広場状になって、その先がわずかに下って右にカーブしながら林道は続くが、その奥200mほどで行き止まりとなる。

このやや下ったところから左の灌木の谷に入り、右上のスギ林の稜線に向かって斜めに登れば数分で稜線である。稜線は広葉灌木の疎林で、心地よい天然林の中の緩やかな稜線登り3、4分で傾斜が急になり、一気に登れば三角点がある小さなピークに着く。展望は南の一部を除いて良好である。4等三角点があるところも稜線付近はアカマツの点在する広葉樹林で、中にカシ、イス、カゴノキ、ナラ、ネジキ、ソヨゴなどが見られる。

参考タイム：岩屋→30分→林道から灌木林へ→20分→三角点



地形図：25000分の「佩楯山」

### 一反田 (いったんだ)

楯ヶ城山から北に延びる稜線から西に、野津川に向かって分派する支稜線の末端部分で、前記の岩屋のピークと小谷を挟んで南に対峙するピークである。

県道山部野津線の豊倉バス停から東に入り、橋を渡って行くとT字路で、そこにある民家(物部宅)西横の車庫の横に入り、荒れた畑地の中の里道を行くとシイの林の中のジグザグ道となり、ほどなくシイの木林の快適な稜線道となる。

そのあと、やや急な登りになると左ヒノキ右ヒシヤカキ林、そしてアカマツの多い灌木林、再びヒノキ林、そしてアカマツの多い灌木林と4、5分ごとに林相が変わり、最後は小灌木の中を急登するとアンテナのポールのある稜線の肩に着き、ポールの根本近くの緩斜面に4等三角点がある。最高地点はさらに5mほど行ったところで、野津川の谷間の展望が良い。

参考タイム：豊倉の民家→5分→シイ林→5分→稜線→15分→三角点

## 中国地方の山々

恐羅漢山 (1,346m) ・三瓶山 (1,126m) ・大万木山 (1,218m) ・琴引山 (1013 m)

(報告：佐藤裕之 (会員 16315))

### 恐羅漢山 (おそらかんざん)

5月5日(木) 天候 晴れ

何というインパクトある怖そうな山名であろうか？小学生のころ、地図で「恐羅漢山」の山名を見て、そのあまりに怖そうな山名がずっと気になっていたが、ようやく登る機会を得た。

昔は、恐ろしかったのかもしれないが、今はスキー場が開設され、明るいいリゾート地になっている。道も歩きやすく、楽チンそのものである。頂上からの眺めは、樹木にさえぎられ、一角しか見えない。

旧羅漢山まで、足を伸ばすと、山頂に巨石があり、壊れかけた梯子が架かっている。慎重に梯子を上ると、島根の山々が良く見えて気持ちが良い。この梯子は実に恐かった。

有名な三段峡の近くにあり、広島県、島根県の最高峰でもある。山名の由来は、羅漢様でさえ怖がる

奥深い山ということらしい。他に、アイヌ語由来説もあるが、「トンデモ本の世界」であろう。

時間 2時間50分 距離4.7km  
累積標高差 500m

**石見銀山観光** 5月6日(金)

石見銀山は、エリアが広く、10km以上も歩く。こんなに歩く観光客は少ないと思うが、我々は、古道調査で鍛えているので、平チャラである。(?)

**三瓶山** 5月7日(土) 天候 晴れ

標高も低く、規模も決して大きくはないが、ピークが6つあり、周回するとそれなりに達成感がある。かわいらしい峰々を山頂でゆっくりしながら、周回するのは実に気持ちが良い。

300名山、日本百低山の一つに選ばれ、島根を代表する山である。世界遺産「石見銀山」から30分くらいなので、観光と組み合わせると良い。山麓には4,000年前の三瓶山大噴火の時の埋没林が発掘・復元され、三瓶山登山の際は、必見の施設である。リフトも通年営業のようで、誰でも登れる良い山だ。

山頂からの展望は大変素晴らしく、出雲方面などの景色が見事である。

時間 6時間24分 距離 7.9km  
累積標高差 955m

**大万木山** 5月8日(日) 天候 晴れ

サンカヨウの花ごろとかで、駐車場が満杯になっている。山頂付近に咲いているが、可憐で美しい花だ。

歩きやすい山だが、展望可能な場所は2か所しかなく、遠く大山を望むのが印象的。山頂からの展望は期待できないが、行程に変化があり、歩いてとても楽しい。さすが日本百低山である。

時間 2時間52分 距離 4.6km  
累積標高差 605m

**琴引山(同日)** 天候 晴れ

大万木下山後、時間があるので登る。連れは、疲れたのでパスするとのこと。

初めからこの山に登ろうと思っていたわけではなく、大万木山のことを調べていると、すぐ近くにあまりにも優美な名前の山があるので、ついでに登ろうと思ったわけだが、登り始めて登山口の解説を見

てびっくり。何と、旧暦10月「神無月」(出雲地方では、「神在月」と呼ぶ)に八百万の神々が、ここ琴引山に降臨されるとある。その後に出雲大社に移動されるのだと。さらに、古代においては、琴は神のお告げを聞く神宝であり、民を治める重要な道具であった。その琴をオオクニ又シノミコトがこの山に納めたということである。これは勉強不足で知らなかった。俄然、登高意欲がわく。道も歩きやすく、山頂からの展望、特に三瓶の姿が良い。まさに、神話の世界である。近くに温泉があるのも良い。最近、これほど楽しかった山は珍しい。機会があれば、絶対に登るべし。

時間 2時間18分 距離 3.4km  
累積標高差 470m

本日、低い山を2つ登ったが、合計すると1日で1,000mを超える山行となった。



琴引山頂 「神在月八百万神々降臨の地」標柱



琴引から三瓶山

<参加者>  
佐藤裕之、佐藤美和子

**こぎこぎ倶楽部**  
**日向岳 (1,085m)**  
**ロープワーク研修**  
**(報告：飛高紀子(会友244))**

5月15日(日)

今回は、由布岳の横にある日向岳でのロープワーク研修です。

【持参するもの】

ハーネス、スリング(シュリング)、カラビナ  
 エイト環、ビレイデバイス等

朝から曇り空。雨が降らなければいいなと思いながら家を出発。由布岳正面登山口から縦走コースの下山口の由布岳東登山口に数台の車を移動し、準備完了です。

8:05 正面登山口から日向岳に向けて、ゆっくり進み10:00に山頂に到着です。日向岳山頂にはミヤマキリシマが一株咲いていました。今年初対面で感激しました。頂上から少し下がったところに、あたり一面トリカブトの群生地があります。そこに大きな岩や木があり、ロープを結びつけるのに格好の場所です。山でロープがあれば比較的簡単に下ったり、登ることが出来ます。また、ロープの結び方を覚えておくと災害時や防災にも役に立つと思います。ザック横にロープやカラビナを装着している人を見ると、この人は登山上級者かなとも思います。

いよいよ、リーダーの講習(飯田マジック)の開始です。始めは、もやい結びからです。前回、ハーネスとロープは装備した方が良いとのことで、参加したメンバーの多くがロープを持参していたので、グループに分かれてロープ使って実践。もやい結びは前回一度教えていただいたのですが…、なかなか苦戦しました。各自木の枝に結んで何度も繰り返し練習しましたが、難しかったです。その他も基本的な結び方(エイトノット、ダブルフィッシャーマンズノット、フィギュアエイトノット、ムンターヒッチ、バックマンノット等…)を順番に教えていただきましたが、ひとつ覚えて、次を覚えてもらった時には前の結び方を忘れてしまっている。そんな感じの繰り返しです。午前中の研修が終わり一息。腰を下ろす頃に雨がポツポツと降り始めました。お昼ご飯中、少し寒さを感じましたが、食事中もロープの話で皆夢中でした。

午後からは、実地研修です。岩からロープを垂らし、スリングとカラビナで作った簡易ハーネスで、降下や上昇の練習の繰り返しです。しかし、何度も教えていただきましたが、すぐに忘れてしまい、手やロープの向きが変わったりすると頭がモヤモヤ。何回も何回も繰り返し反復練習して自分のものとして習得することが一番大事なようです。

山を安全に楽しく登るために必要な研修でした。山中ではいつ何が起るかわかりません。助けを呼ぶこともできない場合もあるかもしれません。このようなロープワーク等の役に立つ技術・技能の習得は、自分の身や仲間の身を守ることができるかもしれません。今回、お昼を挟んでの研修に全員真剣に取り組みました。

研修後、日向岳を14:00に下山を始めました。新緑の中、ゆっくりとお喋りしながら約1時間で東口に到着です。各自車に分散して由布岳正面に戻り、反省会をして解散です。お疲れ様でした。ロープ等を貸していただきまして感謝申し上げます。



飯田講師の実技



日向岳山頂

<参加者>

リーダー：飯田(勝)

中野(稔)、宮原、笠井、鹿島、丹生  
櫻井、遠江、久知良、平原(健)、大渡  
柳瀬、中野(梨)、清水(道)、清水(久)  
平原(瑞)、諸田、吉田、飛高

### 岐阜県の山々

鷲ヶ岳(1,671.5m)・人形山(1,726.0m)・大門山(1,571.7m)・三方岩岳(1,736.0m)・能郷白山(1,617.4m)

(報告：佐藤裕之(会員16315))

### 鷲ヶ岳

2022年6月1日(金) 曇り

岐阜の山々 第1日目である。お城と益踊りで有名な郡上八幡に近い山である。

山名は、1221年(承久3年)7月、藤原頼保の鷲退治に由来するとのこと。

山麓のスキー場からの道は途中からダートになるが、普通車でも多分大丈夫行ける。途中、カモシカに至近距離まで接近し、ラッキーだった。林道が頂上付近まで通じ、スケール感はないが、頂上からの眺めは300名山にふさわしい。特に加賀白山の眺めは圧巻。北アルプス、御嶽、乗鞍も感動的。

下山後、本日は、五箇山の合掌造り民宿に宿をとるが、宿の近くから、人形山が良く見える。写真集で有名な手をつないだ二人の姉妹の雪形がしっかりと確認できた。ところが、連れは、人間には見えないうーと首を捻っている。自分には二人の娘にしか見えないけど。

時間 2時間40分 距離 5.2km

累積標高差 543m



鷲ヶ岳のカモシカ

### 人形山 6月2日(土) 晴れ

本日の山行は、長時間が予想されるため、民宿の朝食はおにぎりにしてもらい、早々に出発する。登山口の中根平までは、ダートと舗装が交互に続くが、普通車でも問題ないだろう。

最初は、樹間の涼しい道をゆっくり登る。登り詰めた宮屋敷跡からは、お待ちかねの大展望で言うことなし。残雪を踏み、楽しく歩く。山頂から大笠山方面の残雪が眩しい。近くの三ヶ辻山にも登って充実した登山となる。ところが、平日のせいか、何と誰も登ってこない。こんなに良い山なのに、なしか?

本日は、白川郷の合掌造り民宿に泊まる。  
合計時間 8時間36分 休憩時間 1時間25分  
距離 13.5km 累積標高差 1275m



人形山の雪形 分かるかな 分かるよね。

### 大門山 6月3日(日) 曇り

日本山岳会編の「日本300名山」には往復3~4時間の簡単な山となっており、当初は、午前中登って、午後から白川郷観光をするつもりであった。

ところが、実際には登山口のブナオ峠までの道は、崩落事故のため3年ほど前から閉鎖され、8k・標高差650mの道のりを延々と歩くしかない(往復16kmを5時間!)。問題は入口から1kほど先の大崩壊地で、半端な崩れ方ではない。頼りないフィクスロープを使って渡ることになるが、ロープが切れるか埋まるかしたら、通過不可能であろう。この崩壊地は、これまで登ったどの山よりも怖かった。登山口のブナオ峠からは比較的簡単だが、長い県道歩きが応えて最後は足が上がりなくなった。頂上は、雪が残り、独特の雰囲気だ。

(その後、大崩壊地は、土砂が撤去され、歩けるようになったとのこと。)

賢明な連れは、連続登山はきつい、中休みをとらなきゃ、とのたまひ、白川郷観光に徹したようだ。本日は、白川郷にほど近い「みやまキャンプ場」にて幕営。このキャンプ場は、温泉も近くて気持ちが良い。やはり、テント場で飲むビールは最高だ！8時間55分 23.0km 登り1,250m

**三方岩岳** 6月4日(月) 晴れ

三方岩岳は、白山ホワイトロードから30分で登ることもできるが、それではつまらない。ということで、ホワイトロード入口駐車場から出発。道は良く整備され、気持ちよく歩く。標高1550m付近の雪田で道を見失い、さんざん探す。頂上直下に来ると急傾斜の雪渓が残る。冬なら顔が引きつるところだが、雪が緩んできており、余裕でキックステップで登って行けるが、連れには軽アイゼンを履かせる。無事、登り切り、観光客が登ってくる北側の展望台へ。標高の低い展望台の方が本峰より眺めが良い。

下りは、連れは滑落するおそれがあり、ロープで確保して降ろす。降りながら、ピッケルを持っていないことに不安になる。派手に落ちたら、止めきるだろうか？とりあえず、何とか降りられたが、万々に備え、ピッケルを持参すべきだったように思う。

それにしても、緑の尾根筋と輝くばかりの白い谷筋のコントラストが何とも美しい。厳冬期やGWころの春山などの経験はあるが、6月上旬の残雪の山は初めてである。このような美しい世界があることを70にして初めて知った。残雪歩きもけっこう楽しめるし、リスクを冒して冬山に登る意味はどこにある？と思われるほどだった。

本日は、山県市(山形ではなく、山県。岐阜の北に位置する。)のみやまキャンプ場のバンガローを予約した。やはり、テントよりゆっくりできる。ここは、沢の水が美しく、とても良いところだ。

合計時間 7時間51分 休憩時間 1時間24分  
距離 7.4 km 累積標高差 1116 m

**能郷白山** 6月5日(火) 曇り

3日間、白川郷周辺の山に登った後、福井県境に近い能郷白山に移動する。今回登った山の中では、一番知名度が高いのではなかろうか。

登山口の温見峠に移動する手前に、有名な薄墨桜がある。桜の時期はさぞかしであろう。その後、

次第に道が細くなり、離合不可・転落＝即死の厳しい道路を延々と走り、ようやく登山口に到着。

ここで、峠から1歩踏み込み、福井県側に入る。これまで福井県以外の都道府県は、その土を踏んでいるが、福井県だけ山に行くときに、列車で通過するだけであった。福井県さんごめんなさい。生まれて70年で全都道府県制覇！の記念すべき瞬間となる。快拳？の余韻にひたりつつ登りはじめるが、なかなか急登である。5日目で、さすがに足が重い。

1,492mのコロンブスピークからは、うって変わってなだらかな山容となる。頂上部は広く、能郷谷からの風が冷たい。それにしても、気持ちの良い山頂だ。さすが、日本二百名山である。

登山道には根曲竹がいくらでもある。最後の日なので、たくさん採集して帰ったが、とても美味であった。最寄りの道路は岐阜県側が通行止め解除後の最初の休日のため、待ちかねたかのように続々と人が登ってくる。これまで、登山者の少ない山ばかりだったが、人が多いとやはり安心である。

下山後、夜を徹して大分に帰る。



能郷白山



三方岩から大笠、笈方面



<メンバー>

佐藤(裕)、佐藤(美)

**こぎこぎ倶楽部**  
**鷹鳥屋山(639.1m)・烏岳**  
**(376.8m)・双子岳(431.6m)**

**(報告: 飯田勝之(会員10912))**

鶴見半島の端にくっ付くように浮かぶ大島には二つの三角点を持つ峰がある。5月末のある日この大島行き計画を考えたが、ふと思いついたのがこぎこぎ倶楽部のメンバーに声をかけたら興味をもって参加する手合いもいるかと思い、誘いのメールを配信した。そうしたらなんと16名の参加者が申し出た。

ところが、予定の6月12日を目前に迫った3日前、参加予定の賀来さんから電話があり「コロナ禍の中なので大島渡航の船には島民以外は乗せないみたいですよ」との知らせ。改めて船会社に問い合わせたらその通りだ。私の計画の詰めの甘さを自覚させられた。さりとてせっかくこの日に山歩きを楽しみにしてたであろう参加予定者に申し訳けないと思い、わけを記して代わりに提案したのが、宇目町のちょっとマイナーで、そしてさほどきつくない、ちょっと面白そうな山だ。

### 鷹鳥屋山

6月12日(日)宇目町小野市の「うめタウン326」に予定の8時に集まったのは16名だ。車の数が多いのでここで車5台に絞ってまずは最初の鷹鳥屋山へ。この山は大分百山に入っていないが知る人ぞ知る結構著名の山だ。

宇目の唄喧げんか大橋の手前から旧国道へ向けて入り、北川ダムに架かる時間橋を渡って右へ藤河内への道を進む。かつては小学校の分校もあつたが、今はほとんど廃村に近い真弓の集落を下に見て、分岐を左に急坂を上っていくと数分で神社の駐車場に着いた。

山登の準備をして舗装の道を登っていくと10分足らずで鷹鳥屋神社に着く。狛犬がいる上の段では対の鷹像がお出迎えだ。社殿に参拝して右横の山道に入る。アカガシの巨木があちこちに見られ、鬱蒼とした照葉樹の森は大分県指定天然記念物「鷹鳥屋山の自然林」である。

深い木立の中を15分余り登ったら山頂だ。石の祠と三角点が待っていた。山頂標識の西の茂みを分けると展望の良い岩があり、目の前に桑原山がそびえていてその右に夏木山から鋸・桧山、その右手遠くには傾山が見える。全員集合の写真を撮って下山開始。濡れたアカガシの落ち葉が滑りやすい。



鷹鳥屋山山頂

### 烏岳

下山後は次の予定の烏岳へ。時間橋からさらに細い旧国道を北上して烏岳入口の林道へ。以前は乗用車でも登山口となる林道の峠までは入れたが、荒れているので旧国道の道脇へ駐車して林道歩きだ。20分ほど歩くと峠の稜線鞍部に着く。ここから南へ登るのだがシカ避けネットや猛烈に茂ったウラジロが行く手を阻んで、先頭行くメンバーのルートファインディングが大変だ。(以前は深い藪ではなくてスイスイ難なく登れたが・・・)(この山と前記の鷹鳥屋山は、16年前に木浦の横岳で安藤幹、茅野亨生両会員の喜寿のお祝い登山会を行った後、有志だけで足を延ばして登っている。支部報34号(平成18年(2006年)7月25日発行)参照)

20分余りで一旦小ピークについて、小さく下った後、小灌木のブッシュを分けて11時30分山頂到着。狭い山頂には3等三角点と小さな山頂私標があ

るだけ。昼食休憩の後全員集合の写真を撮って下山だ。下りはブッシュもかなり踏み分けられて歩き易い。13時20分、県道に到着。



烏岳山頂

**双子岳**

次の目的地は双子岳だ。小野市の手前から林道に入り、国道を跨いだ橋の先で駐車。その奥の尾根へ取り付く。この山は小野市の街の西に二つの頂でそびえて見える山だ。

14時10分出発でひたすら標高差200mの稜線登りだ。一旦緩くなり、ほぼ平らで快適な稜線歩きの後、最後は高度差30mの直登が待っていてこれがしんどい。15時15分到着、山頂では4等三角点と石の地藏さんが待っていてくれた。ここでも集合写真を撮った後はすぐに下山だ。

16時10分下山。尾根のとおりつき地点の小広場に下山後マダニのチェック。誰かさんのスパッツにマダニを発見。足首に血がにじみ出てる人がいた。いつの間にかヤマヒルにやられたらしい。近年シカやイノシシが増えて、山野にマダニがたくさん繁殖しているので、ヤブ山はもちろん、普通の登山道や里山の散歩道でも注意が必要だ。ヤマヒルは県南山地や宮崎県の山では要注意だが、ほとんど血を吸われて逃げた後に出血で気づく。マダニもヤマヒルも喰い付かれたら無理して取らないことだ。マダニなら皮膚科医に行くこと。ヤマヒルはもし喰われてると気づいたら無理に剥がさずに食塩などをかけて逃がすことだ。



双子岳山頂

<参加者>

飯田、中野(稔)、桜井、丹生、大渡、神田、久知良、平原(健)、中野(梨)、安部、遠江、清水(道)、清水(久)、小谷、賀来、平原(瑞)

**こぎこぎ倶楽部**  
**針目山 (484.0m) ・三日月山**  
**496.7m)**

**(報告：中野梨絵 (会友 239))**

6月26日(日)

今日は日田の夜明駅に8時集合。

雨は時折りパラパラとして梅雨時期らしい蒸し暑い天候です。飯田リーダーより、雨上がりのため安全を期して、未知の針目山の谷ルートをやめて、三日月山下方の果樹園へ下山しようと説明があり、車3台をデポのため移動。夜明駅前待つ間もパラパラ降り出し、今日はカッパがいるかなと思いながら待っていると雨も上がりました。そして皆そろって登山口の大山峠へ移動しました。

まずは、峠で今日のルートを地図で確認です。8時55分、早速、目の前の山にとりつきますが、前日の雨でぬれた斜面が水分をたっぷり含んで、足を踏み込むが、滑ってぬかるんで前になかなか進めない。急登の登りで前方の人が「コケるかもしれん」の一言に「受け止められるかな?」、「いいえ、よける準備をしときます」と笑いながら、踏み込んだ足が滑る滑るで、四つん這いになって這い上がりながら登っていきます。両端が切れ落ちた岩稜地帯のや

せ尾根を歩いたり、苔むして滑る岩を慎重にぬけてアップダウンを繰り返すと、大きな岸壁の下に着きました。先発隊が岩の直前まで登れるかどうか確認したが、左右が切れ落ちていて、苔むしているため、雨上がりでもあり、非常に危険と判断して引き返します。左に10mほど下がり、岸壁の裾を巻いてスギの植林地の急斜面を少しずつ高度あげて行きます。一休みしてまたひと登りで11時10分、やっと尾根の上に出ます。あとはらくちんの尾根歩きです。

しばらく歩くと針目山の分岐で、まずは右に進み11時40分に針目山に着きました。針目城という山城の跡であり、戦国後期に大友氏と秋月氏の合戦が行われた記録があるらしいです。ここで皆で集合写真を撮り分岐まで戻るとちょうど12時になり昼食となりました。美味しい昼食の後は、谷下りの最初の予定を変更して三日月山へ向けて出発です。稜線を30分くらい行くと三日月山に到着。大きな三日月岩でもあるのかなと思っていたが、何もない林の中の鈍頂です。木の幹に「杖立山」と書いたのと「三日月山」と書いたのと二つの山名板がありました。リーダーの説明によると三日月山とはこの先の三日月山展望台のある峰も併せて麓の人が呼ぶ名前前で、ここの三角点名が杖立山で、二つの峰の稜線が三日月の弧に見えることから名付けられたとのことでした。ここで集合写真を撮ることになり、最新のピースサインを教してもらい、「若者ポーズ」といって楽しい集合写真が撮れました。後は明るい木立の中の広い尾根をゆったりと下っていきます。13時30分広い林道の終点に出て後は林道下りで、15分ほどの林道歩きで車のデポ地点につきました。このあと、3台の車に分乗してスタート地点（大山峠）に全員集合して解散となりました。地図では分からない変化にとんだ楽しい山歩きをありがとうございました。

<参加者>

飯田LC、鹿島、中野(稔)、櫻井、丹生、平原(健)  
久知良、古谷、柳瀬、清水(道)、清水(久)  
平原(瑞)、中野(梨)、諸田

**こぎこぎ倶楽部**  
**大船山～黒岳の中腹ルート探索**  
**(報告：櫻井依里(会員15463))**

7月10日(日)

こぎこぎ倶楽部の大船山から黒岳にかけての中腹散策山行である。

本来なら昨日から沢水キャンプ場で野営しての計画であったが天候悪化の予報に翻弄され野営中止(これが第二部に繋がる)にての5時間コースの開始となる。

8時久住町有氏の大船山登山口(標高850)に11名が集合し今水登山口を8時40分、久知良美登里さんを先頭に出発し10時に標高1100地点に到達舗装道路に出た。

少し進むとこの辺りから山に向かい入らないかとの声が出た。こぎこぎ倶楽部の面白いところで各自が地図・ヤママップ・GPSを見ながらあっちだこっちだの談義が始まるも飯田さんの指示で藪に入るが直ぐに登山道に出る。10時40分、柳ヶ水分岐に出た、ここは何度か来ているが記憶が鮮明になるまで悲しいが時間が掛かった。(老化現象?)

これからは通常の登山コースで11時30分岡藩主中川家墓地(入山公廟)に着く。

入山公廟は平成9年、国史跡に指定されており中川久清が使用した人馬蔵の説明を読みキリシタン式三段墓をバックに記念写真を撮った。

これより先は昼食をとる場所がないのでここで昼食とし今からの計画を話し合うが当初計画より1時間過ぎており黒岳への計画を変更し下山することにした。

前ぜり分岐で若いカップルに出会い見ていると地図を見るでもなく楽し気に大船山の方へ登り始めたので念のため聞くと黒岳の方へ行くとのこと、道が違うことを教える。

15時30分登山口に着いた。次回はこの続きをしようとのことで解散した。

皆さんありがとうございました。

何時もながら初めてのコースに面白さを覚えるがまだ地図上で現在位置の確信が持たずスマホを見る自分が情けない。



中山入山公の墓地にて

<参加者>

リーダー飯田(勝)・中野(稔)・丹生・大渡  
久知良・平原(健)・平原(瑞)・中野(梨)  
諸田・遠江・櫻井

**こぎこぎ倶楽部**  
**続 黒岳の中腹ルート探索**  
(報告: 櫻井依里 (会員 15463))

今回は続編で黒岳の中腹ルート探索である。(リーダーの飯田さんが記憶が薄れてる、初めてのコース等の言葉が出ると又面白くなる。)

7月17日(日)8時40分久住有氏牧野道入口(この地区は畜産が盛んで駐車には気をつけた方がよい)を若月さんを先頭に総勢14名が出発舗装道を40分ほど歩くとガラン台に着く展望は良く久住町一帯がみえる、この辺りまでピクニック状態でちょっと心配になる。10時10分、前ざり分岐をすぎると黒岳に取りつく前のガレ場に出る凄く荒れ様で大岩がゴロゴロ(積水、岩、山を登る)と岩の川を呈していた多分米窪から崩落したものと思われる。(投稿写真はそこで撮ったもの)そんな場所なのに何ヶ所かに目印のテープがある。ここで意見が割れる一つは直ぐに山に取りつく、もう一つは更にガレ場を登った地点から取りつくであったが結果はその中間地点からであった。

10時30分皆が知る風穴に着く、ここから黒岳に向かい右方向の中腹巻きに入る、この辺りか

ら先頭が丹生さんに代わっていた。それだけ進む方向が分かり難いということで昔はこれもちゃんとした登山道だったと言うが微かにその形跡が見れる安心できるのは右下にさっきのガレ場が見えることだ。

11時40分巻き道最後の地点で右か左かということになるがここでもどうだこうだの意見後、飯田さんの指示方向にて道を発見し分岐となったガレ場に着き昼食となった。(注:スタミナ弁当と思ひ、うな重を持って行ったが冷えたウナギはゴムのようで不味い)

14時30分登山口につきミーティング後解散した。



黒岳に取りつく前のガレ場

<参加者>

リーダー飯田(勝)  
中野(稔)・若月・丹生・大渡・神田・久知良  
平原(健)・遠江・古谷・平原(瑞)・中野(梨)  
諸田・櫻井

**ハヶ岳連峰 赤岳西壁主稜**

**(2022年3月28日)**

(報告: 安東桂三 (会員 9193))

“赤岳西壁主稜”ハヶ岳を代表するアルパインクライミングルートなので、いつかは登りたいと考えていた。前線通過後、高気圧が移動して天候回復から安定するのが、28日の午後と判断した。それに合わせて、26日の午後、車で出発。九州道から中国道、新名神、名神の伊吹パーキングで、車中泊。27日

は、名神、中央道と走り、美濃戸口の有料パーキングに駐車し、徒歩2時間30分で、赤岳鉱泉。午後にはゆっくり過ごした。

28日、早朝、出発し、行者小屋経由で、トラバース地点(7:44)。登攀装備をつけ、60mロープにつながり、取り付けのチョックストーンまで、トラバース。8時過ぎに登攀開始。

1P目 チョックストーンは、左右の壁をステミング。リッジに出たからは、リッジの右側をテラスまで。2P目 テラスから左の稜に出て、右上。3P目 雪稜で、中間部の岩まで。4P目 簡単な凹角から、雪稜、上部岩壁下テラスまで。5P目 上部核心部、右の垂壁を登り、右上。小チムニーを越えて、ピナクルまで。6P目 凹角越えて、簡単なガレ場。7P目 ガレ場から、一般道まで。

11時に赤岳北峰に登り上がった。登攀時間2時間45分。少しの休憩の後、文三郎ルートで下山、行者小屋からは南沢ルート、美濃戸口15時30分。

車を走らせ、翌日8時30分に大分に帰り着いた。

いくつも登りたいルートがあるが、仕事の状況、天候次第、体調・技術などで、なかなか実現できないことが多い。何とか時間をつくってと考えると、今年の残雪期、赤岳西壁主稜が登れて良かった。天候の見極めが出来、それに合わせて、準備。ルートの状況に合わせて、装備の選択。準備は楽しかった。

ロープ1本にしても、40mにするか、60mにするか、1本で良いか、2本にするかと悩み。ピッケルにするか、バイルにするか、多くの課題を考え、それをクリアした。登攀ルートも、いくつかの報告を参照したが、現地の岩や雪稜の状態をパズルを解くようにクリア出来て良かった。また、来シーズンは、次の目標に対して、準備したい。



取り付けまでのトラバース



4P目のテラス

<参加者>

安東桂三、上野展子

## 谷川岳 東尾根

2022年6月25日~28日

(報告:安東桂三(会員9193))

谷川岳東尾根は、谷川岳を理解するには一番良いルート。南にマチガ沢、北に一ノ倉沢、その間にそびえ、谷川岳オキノ耳が東尾根の終了点。マチガ沢出合いからオキノ耳までは、標高差1140m程。

忙しかったが、山に行きたくて、うずうずしていた。天気の変り変わりを見ていたら、どうも27日には、関東は梅雨明けしそうとわかり、急遽谷川岳東尾根を計画した。27日を登攀日と決め、それに間に合うように、25日17時過ぎに車で出発した。

途中のサービスエリアで仮眠をとり、翌26日の昼頃、群馬県の土合に着いた。大分より片道1200キロの走行。

谷川岳インホーションセンターで情報収集、谷川岳山岳資料館では、元日山協の会長の八木原さんとお話し。その後、谷川岳登山指導センターに行き、登山届を提出し、情報収集し、指導を受けた。指導員から「楽しんできて」と言われた。ウォーミングアップがてらに、マチガ沢出合、一ノ倉沢出合まで歩き、一ノ倉沢の雪渓も、テールリッジが目のところまで登ってみた。

早々に車に戻り、明日の準備をして眠りに入ったら、登山指導センターから連絡が入り、シンセンのCOLまでは滑るので、注意と指導が入った。

27日3時半起床。4時5分出発。マチガ沢出合、4時33分。巖剛新道を登り、第一見晴、5時20分。ハーネス、アイゼン装着してマチガ沢の雪渓に下り、シンセン沢出合まで、6時。アイゼン脱着して、シンセン沢を登り、途中より右俣へ。

その右俣は状況が悪く、草付きは滑る、土も滑る、斜面は急で、ところどころの岩は浮き石が多い。途中よりロープにつながり、再びアイゼンをつけ、バイルを土壁に挿し、草をつかんで登った。私の左アイゼンは、トラブルを起こし分離してしまった。東尾根のシンセンの科尔、8時到着。それからは快適な岩稜登りと思っていたが、それは間違いで、草付きは滑る、岩も蛇紋岩で滑る。気を許すことのできない状況で、慎重に登った。

しまっていたロープを出してつながり、タイトロープシステムで登った。第2岩峰は、手がかりがないので、左右の壁をブッシュで登り、第1岩峰は、右のかぶったところに取り付いたが、越えることが出来ず、左壁に変更したが、40～50センチほどの浮石が2個あり、それも越えることが出来ず、岩峰の基部を右巻きした。次第に、山は霧がかかり、谷川岳らしさと状況となり、パラパラと少雨があった。雨はひどくなるなど祈りながら登ると、直ぐにオキノ耳に登り上がった。11時48分。

駐車場から標高差は1250m、行動時間は7時間43分。

トモノ耳へ、そして谷川岳肩の小屋に入る直前に、大粒の雨に襲われ、走って小屋に入り込んだ。昼食を取りながら、通り雨をやり過ごした後、天神平まで歩き、ロープウェイで下山した。

指導センターへ下山報告、資料館の八木原さんに挨拶し、大分へと向かった。大分着は28日13時頃。

谷川岳の難しさと怖さを学んだ。それは、太平洋側と日本海側の間に立つ背骨のような山脈から起因する天候の不順、岩質の悪さによる浮石とスリップ、事前に解っていたことだが、やはり、怖いこと。梅雨明けを予想し、それが当たったが、梅雨明けだと言っても気に置けない登攀は、神経をすり減らした。



手前、マチガ沢雪渓。奥の鋸歯状の尾根、東尾根。

<参加者> 安東桂三、上野展子

## 天測探訪記（姫島） 子午線標

（報告：佐藤裕之（会員16315））

三角点については、私よりずっと詳しい方も多々おられると思うが、天測点と子午線標を実際に確認した人は少ないと思う。3年前、姫島の子午線標探索を行ったことを思い出したので、報告しておきたい。

始まりは2019年1月のことだった。友人のN土地家屋調査士から「姫島に子午線標を探しに行こう。」と連絡があったので、正月気分も抜けきらない、1月9日に姫島に向かった。早速、矢筈岳に登り、天測点を発見！というか、三角点の傍にあるのですぐわかる。みなさんも、姫島 矢筈岳の三角点の横に大きなコンクリート柱があるのを見て、これは何だと思ったことがあるかもしれない。

次に、子午線標を探しに行くが、道がない。探し回ってももう少しのところまで行ったが、天気も悪くなり、最終フェリーに遅れそうになったので、そのときは断念した。

9月、N氏から、「子午線標を発見したが、藪がひどいので伐開したい。」との連絡が入る。そこで、夏の暑さも抜け切らない9月29日、N氏、

W土地家屋調査士と私の3人で、里道を伐開しに  
6月26日(日)

6月26日(日)行く(役場には連絡済)。3人で約2時間、道を切り開いた後のビールはうまかった。

10月、土地家屋調査士会の親睦旅行で、またまた姫島へ。このときはアサギマダラが飛来しており、その美麗さに心を奪われる。職業柄、天測点と子午線標には、皆さん興味津々であった。

ここで、測量の歴史をざっと顧みると、現在ではGPS測量が主流になっているが、その前は三角点を使った三角測量、その前は、星を観測する天文測量などが用いられていた。この天文測量の精度を高めるために天測点と子午線標を設置したのである。

天測点とは、天文測量を実施するために、1等三角点のすぐ横に設置された、分かりやすく言えば観測台である。測量器具を、天測点の上に乗せて星などを観測したのである。現在の測量器は片手で運べるが、昔の測量器は数十キログラムもある重いもので、天測点も堅固な台でなければならなかったようだ。

子午線標とは、天測点から真北方向を正確に観測し、天文測量の精度を高めるために天測点の数キロメートル真北の高台に設置した標識である。

天測点と子午線標は、昭和29年以降、全国の1等三角点のうち、48か所に設置され、大分県には姫島と元越山の2か所、九州では7か所設置されたとのことである。元越山の天測点はすぐわかるが、子午線標は、民有地のため、立入り禁止とのことらしい。従って、子午線標は、県内では姫島でしか見ることができない。詳しいことは、国土地理院のHPを見ても確認できないが、好事家が訪ね歩いた結果がネットで検索できるので、興味ある方は、調べてみると良い。

天測点も子午線標も気の毒な言い方になるが、過去の遺物であり、現在はその役割を終えた。測量器具の急速な進歩と軽量化により、わずかな期間しか使われなかったのである。そのため、あまり世間に知られることもなく、特に子午線標は地図に載っていない山の中にあることもあり、所在が不明になったものもあるようだ。姫島のそれも藪に覆われ、訪ねる人も少なくなっているのは、まことに残念なことだ。

子午線標への道は、我々が切り開き、登山口には、役場に連絡の上、標識を設置した。その後、

また藪になったようだが、以前より訪れやすくなったはずだ。今後、矢筈岳や元越山に登ることがあれば、天測点をよく確認してほしい。姫島に行ったら、車エビを食べて生ビールを飲むのも良いが、子午線標も見に行ってみてほしい。また、他の山でも、1等三角点のすぐ横に幅50cm程度の大きな柱があったら、天測点の可能性はある。よく確認してみよう。大切な「測量遺産」である。大事にして、後世に伝えたいものである。

なお、土地の境界や測量のことで困ったことがあったら、お近くの土地家屋調査士に連絡していただきたい。



後方の天測点の上に測量器が置かれている。  
矢筈岳山頂の看板が巻かれているのが悲しい。



天測点の裏側

## 北アルプス紀行 西穂高岳～奥穂高岳

(報告: 甲斐よしえ)

約20年ぶりに北アルプスへ出かけた。目的地は西穂高～奥穂高にあるジャンタルム、20年前はその姿を眺めただけだったので、今回はその頂ぎに立つ事が目的。

7/22 新穂高ロープウェイで西穂高口まで上がりこの日は西穂高山荘で一泊。朝方弱い雨の予定が、夕方から雨が降り出しツェルトの中はびしょ濡れ。早々と軒下に避難し朝まで寒さに耐える。

7/23 天候が良くない。奥穂高まで行く予定であったが停滞。今夜も寒く長い夜になりそうだ。夜は晴れたがツェルトを張れず、今夜も軒下のお世話になり、正直、ピバークと変わらなかったと思う。

7/24 快晴。4:00 出発し奥穂高を目指す。国内屈指の難関ルート、油断せずに行こう。自分は高所恐怖症ではあるが、ここは怖くない。高所恐怖症には怖いと思うパターンがある。それが分かれば少しは対処できる。この日、同じルートで遭難者がでた。天狗の科尔へ降りる鎖場で滑落し死亡した。何処でも死ぬ可能性があるという事を再認識した。

ヘトヘトになってジャンダルム到着。今日の行程は残り少しであるが、ロバの耳と馬の背が残っている。油断せずに行こう。ロバの耳はどここの事か分からなかったが、馬の背は細尾根だから一目瞭然。尾

根に上がろうとせず、トラバースの要領で行けば、特に問題なく通過できる。約10時間かけて奥穂高岳に到着。さあ、穂高岳山荘でゆっくりしよう。眼下の涵池には支部長達がいるので手を振ってみただけど、気付かないよね。

7/25 白出経由で下山。ここの鎖場が一番難しかった気がする。

今回の山行で

- ① シュラフ・シュラフカバーが役に立たず、ただの荷物となった。活躍したのはエマーゼンシーシート。少し装備を研究してみよう。
- ② 日頃から練習してクライミングに慣れておこう。
- ③ 日程に予備を持とう。
- ④ コンディション悪ければ行かない。

<参加者> 甲斐よしえ、トーマス、田所歳朗

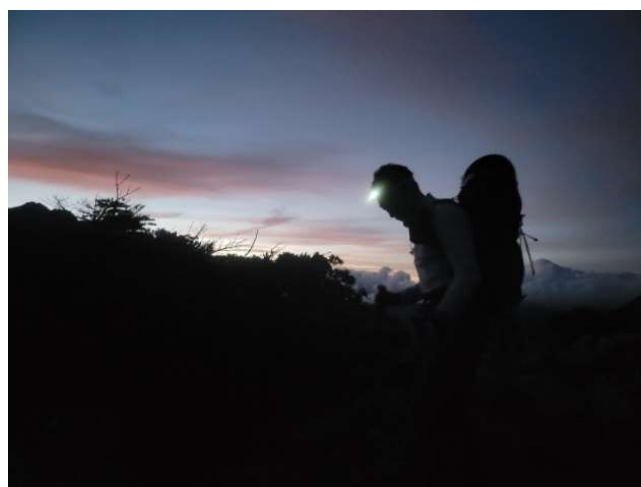


ジャンダルム





ジャンダルム



奥穂高岳山頂

## 支部からの報告(会務報告)

### 支部会議報告

- 第1回役員会 5月12日(水) 大分市西部公民館
1. 令和4年度事業(事業・会計)報告承認
  2. 古道調査 ほか
- 第2回役員会 7月15日(金) 大分市西部公民館
1. 令和4年度 青少年体験登山大会について
  2. 山の安全を祈る集いについて
  3. 「山の日登山」実行委員会の進捗について

### 支部のルームについて開催状況

- 5月6日(金) 大分市西部公民館 出席者 7名  
 6月3日(金) 大分市西部公民館 出席者 8名  
 7月1日(金) 大分市西部公民館 出席者 9名

### 支部ルーム開催予定

- 8月5日(金) 大分市西部公民館 18:00~  
 9月2日(金) 大分市西部公民館 18:00~  
 10月7日(金) 大分市西部公民館 18:00~  
 11月4日(金) 大分市西部公民館 18:00~

## 月例山行のご案内

### 8月例山行：鹿嵐山(757.8m)

(三訂版に新たに選定)

- 日 時…8月28日(日)  
 出 発…8月28日(日) 午前7時00分発  
 集合場所…第一登山口(午前7時00分)  
 参加申し込み期限…8月22日(月)まで  
 担当リーダー…櫻井依里  
 参加申し込み…TEL —  
 (携帯) 090-9795-7309  
 Email [yorisatosakurai@docomo.ne.jp](mailto:yorisatosakurai@docomo.ne.jp)  
 ※地図 [1/25,000 下市・耶馬溪東部](#)

### 9月例山行：御座ヶ岳 (796.6m)

(三訂版に新たに選定)

- 日 時…9月18日(日)  
 出 発…9月18日(日) 午前9時00分発

- 集合場所…大野町安東1823(午前9時00分)  
 参加申し込み期限…9月12日(月)まで  
 担当リーダー…大渡崇夫  
 参加申し込み…TEL

(携帯) 090-8919-3876

Email [ochans2000@gmail.com](mailto:ochans2000@gmail.com)

※地図 [1/25,000 野津原](#)

### 10月例山行：中山仙境(316.8m)

(三訂版に新たに選定)

- 日 時…10月23日(日)  
 出 発…10月23日(日) 未定  
 集合場所…夷耶馬農村公園駐車場  
 参加申し込み期限…10月17日(月)まで  
 担当リーダー…鹿島正隆  
 参加申し込み…TEL 097-545-4846  
 (携帯) 090-1082-8811

Email [macpapa@kcf.biglobe.ne.jp](mailto:macpapa@kcf.biglobe.ne.jp)

※地図 [1/25,000 香々地](#)

### 11月例山行：米神山(475.0m)

(三訂版に新たに選定)

- 日 時…11月13日(日)  
 出 発…11月13日(日) 未定  
 集合場所…佐田京石登山口  
 参加申し込み期限…11月7日(月)まで  
 担当リーダー…河野達也  
 参加申し込み…(携帯) 090-9565-5478

Email [kawanoty@nbu.ac.jp](mailto:kawanoty@nbu.ac.jp)

※地図 [1/25,000 立石](#)

## 第9期登山入門教室開催について

- 第3回 9月14日(水) ホルトホール201  
 会議室 18:30~  
 地図の見方やコンパスの使い方などを学ぶ。
- 第4回 10月2日(日) 実践講座  
 本宮山(608m)  
 地図読みの勉強などをする。
- 第5回 11月27日(日) 実践講座  
 田原山(鋸山 542m)  
 岩場のあるちょっと難しい山に登る。
- 第6回 1月14日(土)~1月15日(日)

山小屋に泊まって山を楽しむ。  
冬の久住山(1787m)に登り、冬山登山  
の基礎を学ぶ。

担当 佐藤裕之

連絡先 (自宅) 092-569-3668  
(携帯) 090-5198-8204

Email : [sa10h@mail.goo.ne.jp](mailto:sa10h@mail.goo.ne.jp)

申し込み : 下川智子 090-9076-3991  
hukus@yahoo.co.jp  
締め切り : 9月30日(金)

## スタケ枯死とシカの食害調査

大分県生物談話会と共同で実施する  
今年度から、上記に加え天然記念物である日本カ  
モシカの生域調査も行う予定。

実施月日 : 6月4日(土) 及び10月1日(土)

実施場所 : 祖母・傾山系本谷山西の稜線

## 2022年度 中級登山講習会開催のお知らせ

2022年8月20日(土) 沢登り(実践編)

・大野川水系黒原谷(豊後大野市町)

9月25日(日) クライミング(基礎編)

・石鎚神社の岩(日出町)

10月16日(日) クライミング(実践編)

・比叡山(宮崎県延岡市)

11月23日(祭) アイゼンワーク

## 喜寿お祝い登山のお知らせ(高崎山)

該当者 : 丸井弘美さん(会員16560)、木本義  
雄さん(会員12019)、石神美智子さん(会員  
14649)、長野瑋子さん(会友66)

実施日 : 10月10日(月)

集合場所・時間 :

Aコース 田ノ浦ビーチ駐車場・9時

Bコース 高崎山南登山口駐車場・10時

ルート :

Aコース(約2時間30分) :

田ノ浦ビーチから高崎山南登山口まで車道を  
歩き、南登山口から通常の登山道で山頂へ。

Bコース(約1時間)

高崎山南登山口から通常の登山道で山頂へ。

## 2022年度 役員研修(終了)のお知らせ

本年度の役員研修山行(一般会員を含む)は事  
故なく終了いたしました。お忙しい中時間を割い  
て講師を務められた安東支部長、支部技術向上の  
ために参加された方、大変お疲れ様でした。支部  
では今後もこのような取り組みを積極的に取り入  
れ、皆さんが、「教わる立場から教えられる」に  
変われるよう活性化に取り組んで参ります。ご理  
解のほどよろしくお願い致します。

## 会員・会友の移動について

- 1.野村芳雄 会員10589 2022.06 退会
- 2.中島洋祐 会員14963 2022.07  
退会、会友260
- 3.大林正彦 会員8758 2022.03 退会
- 4.秋山和俊 会員16871 2022.04 入会
- 5.小野節雄 準会員A0225 在籍期限  
終了 2022.04 離籍
- 6.中野梨絵 会友239 から会員16955  
2022.04 入会
- 7.阿部幸子 会員15032 2022.04 退会  
会友258 へ 2022.04 入会
- 8.笠井美世 準会員A0224 離籍、会員16883  
に 2022.04 移行
- 9.矢上将大 準会員A0250 離籍、会員16895  
に 2022.04 移行
- 10.山村文彦 準会員A0221 離籍、会員16905  
に 2022.04 移行
- 11.松尾和宜 会友254 に 2022.04 入会
- 12.佐藤美和子 会友255 に 2022.04 入会
- 13.橋本真由美 会友256 に 2022.04 入会
- 14.小野正文 会友257 に 2022.04 入会
- 15.井村ゆり子 会友259 に 2022.04 入会
- 16.松内道子 会友261 に 2022.07 入会

## 第4回支部役員会開催のご案内

第4回支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい。

日 時……令和4年9月23日(木)

18時30分より

場 所……大分市西部公民館

## 個人投稿のお願

支部報に定期的に個人投稿下さっている方がいますが、そのほかの方もご遠慮なく投稿ください。山登りに関する山行記、随筆、詩、俳句、川柳など……お待ちしております。

## 支部会費納入のお知らせ

支部会費の未納な方は、早めに納入して下さい。方法は、郵便局へ行って「振込取扱票」を受け取り、口座記号の欄に1970-7、口座番号欄に「公益社団法人日本山岳会東九州支部」金額欄に会員は2000円、会友は3000円(但し、メール会員は、それぞれの会費から500円を引く)と記入し、通信欄の令和4年度支部会費と記入のうえ、おところ、おなまえを記入して払い込んで下さい。

## 後記

・県内の昨年(令和3年)の山岳遭難発生件数は、40件、人数は43人である。前年度同期発生件数は45件、人数は62人前年度同期と対比すると件数で5件、人数で19人少ない。

山岳(山系)別統計でみると、くじゅうが23人、祖母・傾山9人、由布・鶴見で4人、その他で7人となっている。

また、年齢別でみると60代13人(30.2%)、70代9人(20.9%)で、60%を占めている。遭難の態様としては、道迷いが最も多く、県警は余裕のある登山計画と登山届の励行を呼び掛けている。

・山登りをする以上、低山・高山関係なく遭難する確率はゼロではない。会の山行はグループ行動が多くリスクは小さいが、その場合、もしはぐれて自分一人になった時のことを常に準備段階から頭の中に入れて山行に臨んで貰いたい。

(T.A)

## 公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第98号

2022年(令和4年)7月25日発行

発行者 安東 桂三

編集者 阿南 寿範

印刷所 (株)佐伯コミュニケーションズ

発行所 事務局

〒870-1113 大分市中判田15-55 阿南方

TEL・FAX 097-597-7120

E-mail beca5844@oct-net.ne.jp



**山溪**

西日本最大級の品揃え!  
since 1968  
登山・キャンプ専門店  
大分市生石1-3-1

GO ミ ナ サンサンサン  
TEL 537-3333  
FAX 537-3388

●西大分「交番」前高崎団地入り口  
●JR西大分駅より歩いて6分  
●10時~19時30分 ●火曜定休日

1968年創業の**山溪**が  
あなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の110番開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。